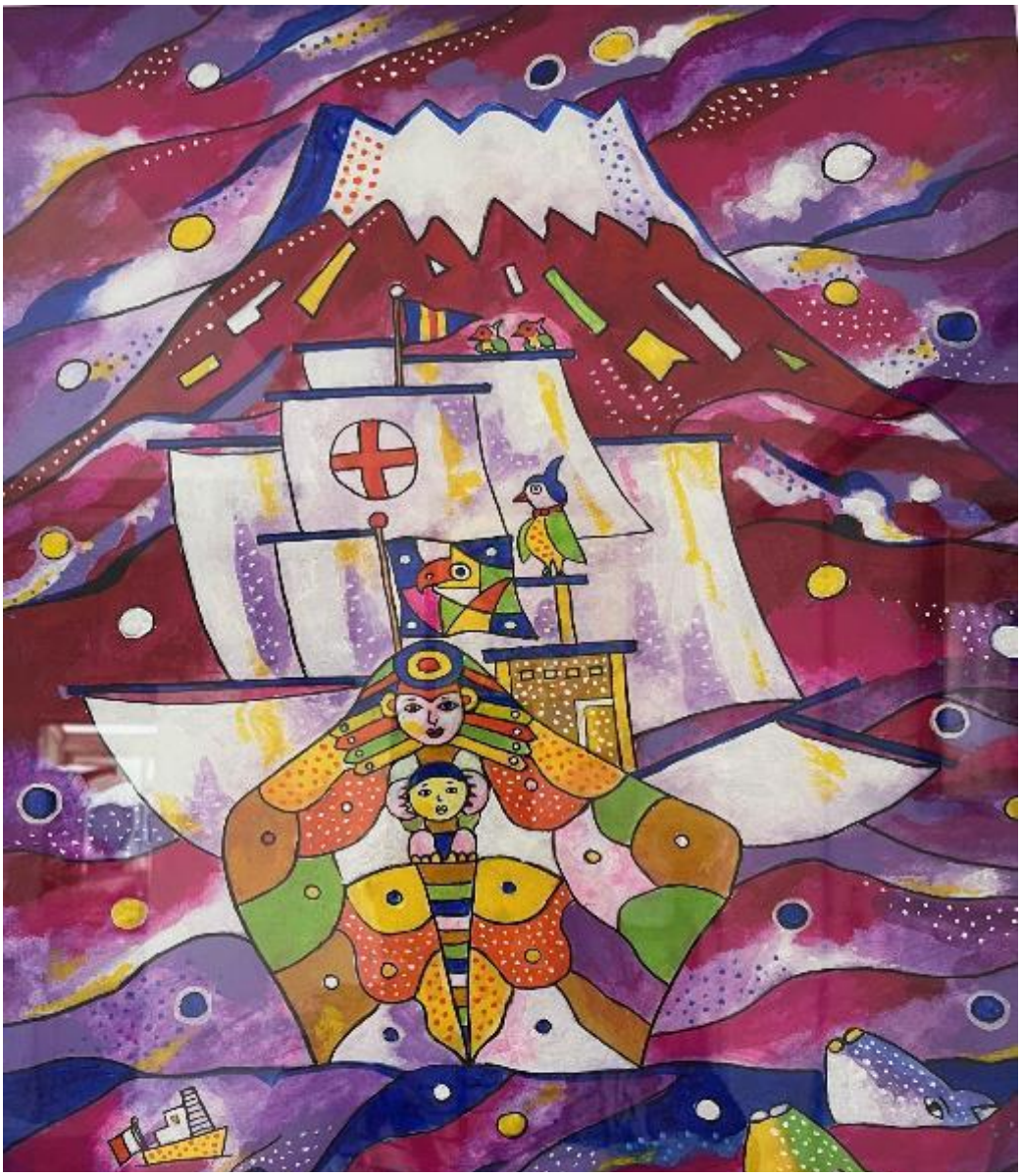
第１４号　2024年12月

帆船日本丸ガイド
会誌



目　次

＊巻頭言

大西代表幹事療養中の新体制について・・・・・・・・・・・・相川　康明　2

＊乗組員紹介

帆船日本丸着任挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・清水　祐哉　3

＊会員寄稿

世界一周レポート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・梶　誠　5

終戦の日に思う・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・岸本　宗久　8

続・日本丸でお相手した外国人あれこれ(第５話)・・・・・・片山　瑞穂　１０

帆船日本丸名誉船長・・・・・・・・・・・・・・・・・・・筒井　哲　１３

夢・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・米原　健一　１５

Da Vinci X って？　“Da vinci から hinotori へ”・・・・・・・古瀬　文晴　１８

昆虫食・ラオス旅行・阿波丸事件・・・・・・・・・・・・・角田　昌男　２２

茅ヶ崎市と弁財船・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・林　作治　２５

私の趣味と米寿のカラオケ挑戦・・・・・・・・・・・・・・安田　岩男　２８

富山港における海王丸（1 世）の思い出・・・・・・・・・・望月　二朗　３２

年金生活１１年の徒然・・・・・・・・・・・・・・・・・・山田　徹郎　３５

“思い出”　私の最後の航海・・・・・・・・・・・・・・・・相川　康明　３８

劣等生の若造に、ここまでやらせてくれるなんて！・・・・・北條　直史　４１

＊特別寄稿

初代帆船海王丸便り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・大藤　高広　４６

＊追悼

伊藤喜市さんを悼む・・・・・・・・・・・・・・・・・・・古市　初夫　４９

北沢昌永さんを悼む・・・・・・・・・・・・・・・・・・古市初夫/片山瑞穂　５０

伊藤さん北沢さんのガイド会誌寄稿文記録・・・・・・・・・　編集長　５１

＊一言・一句・ぼやき・何でもコーナー・・・・・・・・・・・　５２

・津波フラッグと国際信号旗・メキシコ海軍訓練帆船「クアウテモック」訪船記

・休題・・船の話は一休み、チョット蝶等の話・海での漂流事故に思う

・イタリア海軍練習帆船「アメリゴ・ヴェスプッチ」訪船記

・たまには博物館を覗いてみよう

＊写真で見るトピックス　・・・・・・・・・・・・・・・・・　６４

＊事務局報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・事務局長　６７

＊編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・編集長　７２

＜表紙絵：花田兵六会員（水彩画）　裏表紙等の写真：編集長＞

巻　頭　言

大西代表幹事療養中の新体制について

帆船日本丸ガイドの会・代表幹事代行
相川　康明

巻頭言は創刊号以来、本誌発行責任者である代表幹事の挨拶を掲載して来ました。しかし皆様ご存じの通り、代表幹事の大西船長は、5 月末加古川市のご自宅で不慮の事故に遭われ、現時点（10 月）においても、入院治療・リハビリ中と伺っております。

大西船長の一日も早いご回復、復帰を心よりお祈りいたします。

大西船長の奥様からの情報を安田顧問経由で伺い、入院加療が長引くこと等から、当会の運営体制の見直しが必要と判断しました。そこで、当会の新体制を図るべく 7 月 4 日 14：00～17：00 迄、幹事会を Zoom Meeting で開催しました。

その結果、「会則第 5 条に従い相川副代表が代表幹事の代行を執り行う事。又、川瀬副代表と（独）海技教育機構との窓口に米原幹事が担当する新体制で古市事務局長をネットワークの中心にして、大西代表幹事の復帰を願いながら、来る 2025 年 5 月の当帆船日本丸ガイドの会総会まで遂行すること」となりました。

従いまして、小職相川が、微力ながら職務を代行する所存です。

小職自身も 86 歳になる高齢者ですので全会員各位の更なるご指導とご協力を切にお願い申し上げます。

その①としては、当会の健全な Primary Balance の在り方が今後の継続的な課題として捉えており、収支の見直し等についての案につき相談をしていきたいと思っております。

その②は、これからもボランテイアガイドをご理解して頂ける参加者の募集です。

その③は、会員各位のガイドとしての自助努力をこれからもよろしくお願いします。

その④は、日本丸ガイドを通して来船者様の海事思想の普及に貢献して頂ければこの上ない喜びです。

当会発会 2 年後から継続発行してきた、帆船日本丸ガイド会誌については、関係各位の尽力によりこの度第 14 号を発刊することとなりました。今号も、会員及び関係者の力作が掲載されております。本号が、会誌発行の目的であります「会員相互の理解と懇親、会の活動記録の保存」に役立てば幸いです。

以上、簡単ですが、代表幹事代行のご挨拶とさせて頂きます。

以上

乗組員紹介

帆船日本丸着任挨拶

清水　祐哉（二等航海士）
公益財団法人帆船日本丸記念財団　指導部

【着任挨拶】

本年 4 月 1 日より帆船日本丸記念財団の二等航海士として着任いたしました、清水祐哉（しみずゆうや）と申します。帆船日本丸ガイドボランティアの皆様におかれましては、日頃より当財団公開事業にご協力頂き心より感謝申し上げます。

当財団へは他の指導部若手職員同様、例によって海技教育機構（旧航海訓練所）より出向で来ており、二年間の任期を勤めることになっております。短い期間ではございますが、練習船で培ってきた経験と持ち前の体力で初代日本丸の事業に貢献する所存ですので、何卒宜しくお願い申し上げます。

【自己紹介】

出身地は、ここ横浜で小中高と市内の学校に通学しておりました。海に触れる機会が多かったことから、自然と海や船に関わる仕事を目指すようになり、2014 年に東京海洋大学 11 期生（旧東京商船大学 56 期生）として入学しました。当時は全寮制ではなかったものの、東京方面に向かう殺人的な乗車率の電車内に毎日 2 時間余揉まれることを大学に進言したところ、途中からでしたが海王寮に入れさせてもらいました。卒業までの間 3 寮 1 階に住んでおりましたが、丁度学生自治から大学自治への移行期間で如何とも言い難い寮生活でした。5 畳の限られた空間で自炊をしながらの共同生活を微塵も苦に感じなかったのは、今思えば当時から船での暮らしに向いていたように思えます。相も変わらず狭いところが好みで、汽船の練習船に乗っても部屋が広くて落ち着かず、配乗希望は専ら帆船ばかりです。

【教官を目指した経緯】

私が練習船の教官を目指したのは大学一年生の夏休みのことでした。入学当初、夢にまで見た大学 1 年の華々しい夏休みが、遠泳実習と乗船実習で消失してしまうとはつゆ知らず、4 日程度しか休みがなかったことに愕然とした記憶があります。千葉県の富浦で実施した遠泳実習が終わった翌々日に神戸港から二代目日本丸に 1 か月間乗船しました。船という全く未知の環境、文化での仲間との共同生活や、規律や慣習に厳しくも話すと存外愉快な教官との航海に胸が躍りました。今では希望通り練習船の教官として働けて嬉しく思っております。

就職 1 年目の私
当時三席三等航海士

【趣味と特技】

堅苦しい話が続くとつまらないので閑話休題です。中学から大学に至るまで水泳部に所属していましたが、最初の入部理由が『カナヅチを克服したかった』からでした。小学校の頃、友人とキャッチボールをしていたら、大事な彼のボールを川に落としてしまいまし

た。自分が泳げないことなど忘れ正義感だけで冬の川に飛び込んだものの、寒さで体は動かず、仕舞にはボールも救えず体は傷だらけ。己の無力さや周りに迷惑をかけた事実に絶望を感じました。この挫折を乗り越えるために水泳部を選びましたが、負けん気が強いことや一つのことに集中する性格が功を奏して、中学 3 年生では横浜市大会で 200m 平泳ぎの決勝レースに進出するまで上り詰めました。部活を辞めてからも継続して泳いでおり、寄港地ごとに違うプールに行っては体を動かして気分転換をしています。

他に気分転換といえば、釣り好きな父親の影響を受け、子供の頃から魚釣りをやっています。練習船に乗っている間も、仕事に余裕のある時は釣りに時間を費やしています。錨泊中に色んな魚を釣り上げては、捌いて乗組員に振舞い大宴会。酒飲みも道楽もしっかりと遺伝しており、もはや宴会の為の釣りのようになっていますが、結果的に愉快な人たちと飲めるので良い趣味を持ったと思っています。

瀬戸内で釣った 50cm の鯛

【海王丸での実習と勤務】

内地航海（1～3 月）に続く遠洋航海（4～6 月）は海王丸での実習でした。2 月の寒い時期に帆走訓練をするため、暖を求めて鹿児島に入港していましたが、厳しい寒さのあまりヤードに氷柱が張っていました。例外なく木甲板も凍っていましたが、裸足の指先の感覚が半ば分からなくなりながらタンツーをしていたのは忘れられません。負けじ魂だけは他の誰よりも強く、マストに登る時は一番上のロイヤルヤード、登檣礼をする時はバウスプリットでチアリーディングリーダーと、居住性だけでなく競争心を掻き立てる環境が、私の帆船好きを加速させているのかもしれません。

雪の降り積もる海王丸
（写真：2022 年 1 月東京港）

遠洋航海は残念ながら、同時期に発生した日本丸での登檣訓練中の事故を受け、機走での航海でした。当時は実習生として帆走航海ができずに意気消沈しておりましたが、奇しくも就職後の配乗が海王丸で、コロナ禍ではありましたが事故後初の帆走再開に携わりました。なかなか帆船に乗りたい後輩も少なく、丸二年間ボットムの三等航海士として海王丸に乗船していたこともあり、時には苦しい時期もありましたが、右も左も分からない時期に貪欲に帆船のあれこれを学ぼうとした姿勢は、しっかりと今の私を形成しております。

【帆船への思い】

現役の帆船に乗ってつくづく思うのは、帆船は大変良い教材であるということです。自然の脅威も豊かさも知らしめ、乗っている人の心を育む、この上ない教材です。当財団の事業の柱ともいえる海洋教室や総帆展帆が 94 年経過した今でも続いているということは、それだけ帆船に魅力があるということに相違ありません。そのような仕事に携わることができて心より嬉しく思います。私が大学 1 年次に感動したように、初代日本丸を見学のお客様に感動を与えられたら幸甚です。

以上

会　員　寄　稿

世界一周レポート

梶　誠

去年 12 月より今年 3 月末日まで、第 116 回ピースボート”Pacific World”の世界一周航路にお客様として乗ってきた。

船は、95 年 11 月イタリアで竣工した、当時としては世界最大級の客船であり、ピースボート（P.B.）としても、過去最大の船型（総トン数 77,440ton、L/B/D は各　261m/37.25m/8.1m）。

南半球を廻る 105 日間のクルーズで、主な寄港地はハワイ・タヒチ・イースター島・カヤオ（マチュピチュ）・南アメリカ最南端のウシュアイア・モンテビデオ・ブエノスアイレス・リオ・ケープ・マダガスカル・シンガポール・深圳を含む 18 港だった。

ピースボートの船の特徴として、4 人部屋まで用意され、他のクルーズ船の 2 人部屋専用と異なり、個人の乗客が多く、割安でクルージング出来る事である。従って若者も多く、運動会などの催しは率先して準備・運営を行い、活気があふれている。又、船内では各個人の自主企画が盛んに催され、音楽・歌・旅物語・吹き矢・水彩画・詩吟・着付け・ダンス・等、自分が得意とする種目を、前日夕方に発行される新聞に掲載し、どの催しに参加しようか？と乗客が自由に選ぶ様になっている。これらの企画に積極的に参加し、自分で行動する事が、船内生活をエンジョイするコツであろう。（他のクルーズ船の様に、受け身的に観覧のみがメインとなると、多くの芸人を揃える必要が有り、どうしても割高となる）

その他、各寄港地間の短期間のみ乗船してハワイアン・タンゴ等のダンス・アフリカの音楽、落語等を披露するほか、世界情勢の解説・旅行記の講演、寄港地の解説をする、「水先案内人」と呼ばれる人の制度もある。

本船は、2000 人を超える定員であるが、今回は日本人 1200 人、中国・台湾・韓国・マレーシア・シンガポール他が 600 人の計 1800 人が乗船していた。ちなみに最高齢は 96 歳と聞いた。従来の P.B.は、略乗客全員が日本人で、人数も千人以下が多く、航海の終わりごろは大体顔見しりになっていたが、今回は終了時点でも初顔と思える人が見受けられた。各種の船側による催しも、日本語だけでなく、英語・中国語・韓国語の通訳が都度入る為、間延びする感じが否めない。

寄港地の中で特に印象に残った部分のみ紹介する・・・・・

１）今回のクルーズの売りは、「本場のリオのカーニバルを生で見よう…」で、航路もそれに間に合わせるため、例外的な東回りであった。本場の踊りの迫力も見ごたえがあったが、特筆

される　のはカーニバルの間中、街に繰り出した人々が男は上半身裸、女性は申し訳程度のＴバック姿で、練り歩き、もみ合っている事。すぐ目の前で、スイカの様な臀部が揺れ動くさまは、まさに……！？

２）モンテビデオ（ウルグアイの首都）：ブラジルとアルゼンチンに挟まれた小国だが治安も良く、非常に清潔な感じ。港からすぐ市内を散策でき、電柱・電線が無いので、巨木が伸び伸びと緑の葉・花を生い茂らせ、町中が公園の様。
食事もアルコール分の濃いビール・肉・エビ類が美味。

3）マダガスカル：バオバブの木で有名な国で、日本の 1.6 倍の面積が有るが、一日の生活費は 2 ドル程度と言われ、世界最貧国の一つ。島の周りは浅瀬が続き、港に 1.5km 程の桟橋が設置されているが、その突端でも、本船は着桟できず、テンダーボートでの上陸であった。バオバブの群生を見る為、タクシーで 1 H の植物園を見学。どこでも手織りのテーブルクロス・木彫りを持った 4 ～10 歳位の子供等に取り囲まれた。

4）ナミビア：20 年近く前、同じく P.B.で訪れた国だが、砂漠の山脈が地平線まで連続して連なっていた印象が、大きく変化し、平らに整備された砂道に、砂の小山が所々存在している感じで、観光としては、少々物足りない。この地で、人生 2 度目の「スカイダイビング」を挙行した。

5）深圳（しんせん）：中国の成長をまざまざと見せつける都市。香港の対岸で、つい 20 数年前はひなびた漁村であったが、現在は、すさまじく発展している。アクアラインの数倍に及ぶ海底＆陸上の橋で香港と結ばれ、ドバイを抜いて、建造当時は世界一の高さを誇った高層ビルを初め、IT 関係のオフィス、銀行が建ち並び、整備された交通網が張り巡らされている。
地下鉄も充実し、運賃も 65 歳以上は無料。運転士も乗車してはいるが、万一に備えているだけで自動運転されている。
（尚、シンガポールの地下鉄は、日本のクレジットカードが、そのまま使用可）
食事は、流石に食の国で、円安の影響を感じさせない値段・味で会った。

海外旅行の楽しみは、現地での史跡巡り・食事・土産物の購入だが、船で募集する OP ツアーも円安で高騰し、取捨選択を厳しくせざるを得ない。
その為、今回の寄港地では、ツアーを取らず、タクシー・小型バスを個人でチャーターし自分たちで史跡巡り・買い物ツアーを実施する人が目立った。
特に、ハワイ・シンガポール等の先進国では、買い物・食事が 2 ～5 倍程で、注文するにも二の足を踏む。

クルーズでは、新しい人との出会いも楽しみの一つである。我々の年齢になると、同期会でも鬼籍に入る人や、病魔に侵される人が増え、年賀状の枚数も年々少なくなって来ているが、3ヶ月半、狭い船内で一緒に過ごせば、いやでも数十人～100人以上の人と新たに知り合いになる。下船後も相互訪問し合い、自主企画に参加したチームで温泉場での合宿等も行われている。

私も、今回のクルーズでは、商船大学OBの谷（東京N)、村井（神戸N)、幽経（東京E）各氏と知り合い、寮歌を流しながら飲み、昔話に花を咲かせた。
ピースボートでは、エコシップ新造の話が有ったが、関係者の話では、造船所をフィンランドから上海に変更して、建造中との事。もし事実で有れば、今一度乗船してみたい気もしている。96歳でも元気に乗船している人もいるのだから…。
その時は、円安が解消されている事を祈って…。　　終り

写真には敢て説明は入れず・・・・旅の記録と記憶の極一部を添付・・・諸々ご想像下され！

終戦の日に思う

岸本　宗久

今年もまた「終戦の日」がやってきた。私は朝飯を食べずに仕事に出かけた。「終戦の日」の“朝食抜き”は、もう数十年続いている私なりの流儀である。

昭和20年8月15日、大東亜戦争は終わった。なぜ終わったのか。ポツダム宣言を受入れ、武装を解除させられたからである。戦争に負けたのである。国家を挙げての戦争に負けた。屈辱の日である。果たして、“終戦”とは名ばかりで、日本は連合軍に進駐され、GHQ の下で、上層部軍人や国政に携わった一部の官僚は敗者としての一方的な軍事裁判にさらされた。一般人民は、最近明らかになった、WGIP（War Guilt Information Program）により、徹底的に、いわゆる自虐史観を植え付けられた。日本国民の受けた精神的ダメージは、戦後 80 年になろうとしているのに、未だ払拭されるに至っていないように思う。

戦争なんてだれも望むまい。だからと言って、戦争反対を唱えれば、世界中から戦争がなくなるわけではない。ロシアによるウクライナ侵攻やパレスティナ紛争に見るとおりである。戦争は武力だけではない。経済戦争もある。その場合は、資金力がものをいう。力の種類が違うだけで、その効果は最終的には変わらない。負ければ敗者であり、敗者は衰える。古今の事実の示すところである。今や種々な型での戦争が日本を取り巻いているような気がする。それらの戦争から逃れられない場合、戦争は必至である。戦争には負けられない。

私は、「終戦の日」というこの“屈辱の日”を忘れない。「終戦の日」の“朝食抜き”は、この日の記憶の風化を防ぐためと、ささやかながら、私にとっての臥薪嘗胆でもあるからだ。

79 年前の 8 月 15 日、札幌の空は高く晴れ渡っていた。私は、家族疎開で、その当時札幌にいたのである。その日は学校が休みだったのかもしれない。私は朝から、お世話になった菊池さんの家を訪れ、同学年の菊池君や近所の仲間と遊んでいた。お昼近くなって、菊池さんのおばさんが、みんな中に入ってきなさいという。昼飯かと思って茶の間に入ると、おばさんはラジオの前に座って、これから天皇陛下のお話があるから、みんな静かに聞きなさいという。菊池さんのおばさんはいつも優しくて私は好きだった。だがその時のおばさんは怖い顔つきだった。仲間が何人だったか覚えていないが、みんな仕方なしにおばさんと並んで座った。まもなく天皇陛下の、いわゆる、玉音放送が始まった。だが、私たちにはよく聞こえなかったし、内容も分からなかった。放送が終わると、菊池さんのおばさんは、しばらく両手で顔を覆っていた。泣いているようだった。腕白盛りの私たちも、おばさんのただならぬ様子に何となくしゅんとして、みな膝をそろえた。おばさんは私たちに向かって「戦争は終わったんだって。今、天皇陛下がそうおっしゃった。」と静かに話

し、そして「負けたんだよ」とうつむき加減につぶやいた。その時は特段の感慨もなかった。お昼ご飯を食べさせてもらって、私たちはまた外に出て遊んだ。

家に帰る途中、丸山公園の向こうの空は夕日に染まって真っ赤だった。すると突然轟音とともに２機の複葉練習機－通称“赤とんぼ”－が上空に舞い上がり、宙返りを繰り返した。びっくりして見上げる私の視野から、２機はまもなく消えていった。あれは一体何だったのだろう。私はそのとき、日本はまだ負けてはいないと思った。

８月１５日、「終戦の日」は丁度お盆である。死者の霊は、お盆の日にそれぞれの家に戻ってくる。迎え火とお鈴で霊を家に中に招き入れ、送り火とお鈴で再びあの世へ戻ってもらう。わずかな時間ではあるが、そこに死者と生者との魂の触れ合いがある。「終戦の日」はお盆と重なることで、大東亜戦争での戦死者たちの霊がそれぞれの家や故郷に帰ってくる特別な日である。私たちにはこの日、改めて戦死者たちを偲び、正午の時報に合わせて黙祷し、哀悼の意を表すると同時に、あの戦争の意味を考えるという、多少なりとも敬虔かつ神聖なひと時があった。こうすることで、戦死者たちの霊は私たち現代に生きる者たちと魂の交感を得ることができたと思われた。

「終戦の日」は戦後の始まりでもある。思想家で京都大学名誉教授の佐伯啓思氏によれば『戦後という時空は物言わぬ戦死者たちの思いの上に成り立った時間であり、終戦の日とは、その思いをわれわれが受けとめようという厳粛さを持った特別な日付であった。この厳粛さのなかで、生者は、死者たちの前で、自らの行動を省みるという倫理観をあらたにしたものである。』（令和２年８月11日、産経新聞、「戦後75年に思う」より抜粋）。

だが、戦後80年近くにもなると、戦争経験者もその遺族も少なくなり、戦死者たちの無声の慟哭や、無念な思いを聞き取る場も少なくなると、戦争経験の伝承も難しくなりつつある。「終戦の日」にメディアから流れる終戦関連報道は、相も変わらない自虐史観に基づく映像や記事のたれ流しであり、それ以外は高校野球の勝敗、大谷翔平とデコピンの話題、そして海山へのバカンスの宣伝といってよい。こうして戦死者たちの霊は行き所を失い、生者との魂の交流の場を失ってしまった。

特攻の戦士は「後に続く者を信ず」と言い残して散華していったという。この遺言に託された戦士の思念は何だったろう。それが、彼らの故国である日本の「平和と繁栄」であったとすれば、私たちが現在享受している、この「平和と繁栄」を、言わば戦後80年の成果だとして、自信をもって示せるだろうか。アメリカ流のリベラルな価値観を信奉し、アメリカとの親密な関係を維持してここまできたが、それはあくまでも”あなた任せの平和と経済的繁栄“であって、”日本古来の心の平和と豊かな日常生活”とはかけ離れており、特攻戦士から負託されたものとは異質なような気がする。

「終戦の日」は、戦死者たちの霊を迎え、静かな鎮魂と慰霊の日にしたいと思う。

以上

続・日本丸でお相手した外国人あれこれ（第５話）

片山　瑞穂

日本丸のガイド制度が 2008 年にできてから 2018 年 10 月末までに、約 20 カ国・100 件以上の外国からの見学客をお相手しました。
其々、心に残る出来事を当会誌に連載して第４話まで掲載しました。
大規模修繕工事中の休館もあって、一旦連載は終わりにしましたが、今回（2023 年 10 月）たまたま、西アフリカ地区の２つの国からのお客さんを迎えたので、続きとして紹介することにします。

★　キャナリー・アイランド（スペイン）　★

【アフリカ北西部】

スペイン語で会話をする夫婦が来船した。いつものように日本語と英語で一通りの挨拶の声をかけ、私はスペイン語を話せないのでちょっと距離を置いて控えていたら、ご主人の方が英語で「What are you？」と話しかけて来たので、名札を裏返して英文の方を見せて「Volunteer Guide」と応えたら、安堵したような顔で「Excellent! Guide to us please.」とのこと。

特別に日本丸に興味をお持ちか尋ねたら一般的な説明をお願いするとのことで、奥さんも英語を理解するから英語の会話で良いと、船内の見学順路に沿って一通りの説明をしながら案内した。

歩きながら、ご主人が Canary Island を知っているかと問われたので、行ったことがあると答えた。ご夫婦は、カナリア諸島からの旅行で日本に来たというスペイン人で、ご夫婦とも船内所々興味深く、質問も多く、合間にカナリア諸島の自慢なども聞かせてくれた。私も応じて、貨物船でラスパルマスに寄港したり、ISO の国際会議でテネリフェ行ったりしたことがあると符丁を合わせた。

カナリア諸島はアフリカ北西部大西洋上の、モロッコと西サハラの沖約 100km に位置す

る 7 つの島々の総称で、避寒地・保養地の美しい穏かな所。国際会議の会場にも使われている。

私の印象に残っているところでは、アフリカ一周航路の船に勤務していたときのことで、船舶関係ではマグロ漁業の中継基地として、日本のマグロ漁船が大西洋で漁をしたマグロを一々日本まで運ばずにラスパルマスで陸揚げして冷凍し、日本の貨物船で日本まで運ぶ基地になっていた。

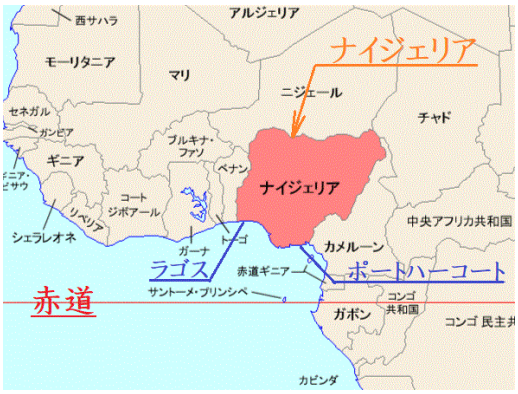
【トレーに載せた冷凍マグロ】

カナリア・アイランド近辺海域には日本の診療船も錨泊していて漁民の健康管理を行っていたが、ある時若い漁船員が健康を害して仕事を続けられず日本に送り返さなければならなくなり、飛行機は高くつくので我が社の船に便乗して帰国させることになった。ところが、スエズ運河を経由して日本への航海の途中で、それほど日を置かずに彼の健康は回復して、暇を持て余し、各当直状況を覗いたりしていた。当人曰く「商船ってこんなにのんびりと楽な船なのか」と驚いていた。漁船は毎日が戦のようで重労働だったとのことであった。本船のドクターも彼を診察したが、何の病気だったかはわからないと云っていた。

もう一つ記憶に残ることとして、ラスパルマスには鍾乳洞があって見物したことがある。解説書によると太古の昔、アフリカのサハラ砂漠の砂が東強風で吹き寄せて島を覆ってしまい、湖は鍾乳洞となり、湖にいた魚は長年闇の中で目視の必要がなくなって目のない魚が生息していた。

★　ナイジェリア　★

若い三人組のアフリカ系肌色（こう表現しておく）のグループの人が来船した。多分 30 代から 40 代と思われる男性二人と女性一人で、清楚な感じで、優雅な香り（多分女性からだと思う）を漂わせていた。



当人たちはナイジェリアからの観光で来日し、特に港湾都市横浜を中心に見物に来たとのこと。日本丸の何に関心を持っているか尋ねると、三人とも、興味があるが何を見て良いか特徴が分からないと云うので「ご案内しましょうか？」と問うと「是非お願いします」とのことで、船橋からスタートして一般的な説明から始めた。

ところが、かなり具体的な質問も多く、論理的な答えを望むようなので、彼らの専門を訪ねたら三人ともエンジニアで、女性がケミカル、男性の一人はメカニカルもう一人が IT のエンジニアだそうであった。

質問も、例えば、磁気コンパスになぜ水が入っているのか。なぜ水平を保たなければならないのか。レーダー画像はどうして映るのか。舵はどのようにして遠隔で制御できるのか。エンジンの制御はどのようにするのか。鎖錨の制御はどのように連係するのか。関連してボイスチューブの体験もしたが、ほとんどの人は「アー・アー」とか「聞こえますか」とか発声するが、彼らは「xx を見物したのは面白かったね、オーバー！」「あそこで食べた xx は美味しかったね、あなたは何が好き？オーバー！」と云ったストーリーを作ってタイミングよく楽しそうに会話をした。気の利く人たちだなと感心した。他に、マストの材質、食材の保管、モールス符号の構成。沈黙時間制度。双曲線航法と GPS。…等々。3 人は入れ替わり立ち代わり質問を連続し、研究熱心を想わせた。スマホで写真を撮りまくり、女性は若い女性らしく所々でポーズを作ってスマホのシャッターをタップしてくれと度々要求された。

西アフリカ沿岸は、私達が小学校の頃地図で教わった名称は、“象牙海岸”や“奴隷海岸”あるいは“黄金海岸”などの名称で、その後この呼称はなくなったが、船で寄港した頃はラゴスとかアパパ、ポートハーコートなどが記憶に残っている。ナイジェリア、正式にはナイジェリア連邦共和国（Federal Republic of Nigeria）で、アフリカ大陸の西南部に位置する国、私達が寄港した頃まではラゴスが首都であった。アフリカ航路の船は、南アを回って北上し、ギニア湾沿岸のガボン、カメルーン、ベナン、トーゴ、ガーナ、リベリアなどの港を寄港して行く航路で、その一部であった。日本を発つ前には予防注射を何本も打たれ、憂鬱な航路ではあった。

このような私の経験はかなり古く、印象に残っているのは、その頃は未開の漁村で、土造や木造の小屋で、砂原でタロイモを煮て食するような生活ぶりだったので、街灯などもなく、夜街に出ると闇の中で人の肌色と区別が感じられないので襲われても分からないから夜間の外出は気を付けろと警告されていた。

この見学者と自然に楽しい会話しながら、船の航海設備など近代的な技術の話を交わしている中で、とても私の古い体験談など話題を持ち出すきっかけもなく、平素は海外からの見学者には、儀礼的に少しばかり国や都市の思い出などと話しを合わせるのだが、流石にイメージがかけ離れているので、説明のしようもなく、船の話題に専念して、楽しい会話に終始し、彼らは喜んで感謝の意を述べて下船して行った。

【余談】　アフリカ航路での土産に黒檀の手彫りの胸像がある。我が子が幼い頃、云うこと聞かないときに、これを持ち出して脅すのに利用したが今は飾り戸棚の奥に収まっている。（右写真。路地で製作販売しているのを買ってきた物。重さ約 5kg。）

（了）

帆船日本丸名誉船長

筒井　哲

2019 年に帆船日本丸ガイドの会に入会して以来、サロン手前の銘板に ALFEE3 人の名前があるのを不思議に思っていた。

岸恵子、加山雄三、星野哲郎、柳原良平あたりは、それとなく分かるのだが！

あれは、6 月 29 日の昼過ぎだった。ガイド控室でお昼を済ませた時のこと、ALFEE ファン 3 人の女性が来たとの連絡があり、どんな人達だろうと思いながらガイドを始めた。千葉、東京、横浜からの人達で、ALFEE のコンサートに参加して、帆船日本丸に関心を持ったとか。

いつも通り案内していると、一人の女性がおもむろに”ツアー・ブック“（アルバムとプログラムを兼ねたような本）を取り出して、ALFEE メンバーが写っている頁を指さして「これは何処で写したのかしら？」と次々と尋ねられ、その撮影場所へ案内して背景等を説明した。

ツアー・ブックの表紙

何でも、この”ツアー・ブック“を見て、ALFEE が写っている帆船日本丸が気になり、一度見に行ってみようということになったようだ。

ALFEE の 3 人の名前が記されている銘板の前では、記念写真の撮影係を務めた！

案内を終え 3 人がお帰りの時に、帆船日本丸が格好良く写っているので興味を覚え、「そのツアー・ブックは、どこの本屋さんで買えますか？」と尋ねると、「コンサートの中でしか買えないので、これを差し上げます。」と言われ、あらあらと思いながらも有難く頂戴した。そして、「8 月に K アリーナでコンサートがありますよ。」と教えてくれた。

—K アリーナでコンサートがあると聞かされてもな～と言うのが正直な心境—

—いつもラジオの選局を NHK FM に合わせているので、3 人の軽妙なトークと音楽の ALFEE の番組”終わらない夢“を聴くともなく聴いてはいたのだがー

ツアー・ブック裏表紙

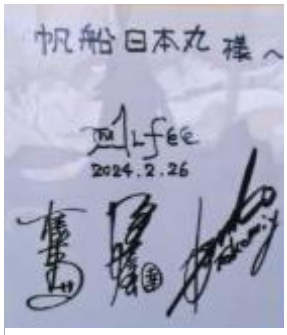
何故 ALFEE の 3 人の名前が、帆船日本丸の銘板にあるのか知りたくて、調べてみた。第 4 回海の祭典・横浜開港 130 周年のイベントの一つとして、1988 年本牧ふ頭にある

横浜港シンボルタワー前の芝生広場で ALFEE のコンサートが開かれた。
当時担当された人の話では、観客は関西から団体バスで参加の人を含め 2 万人以上となり、興奮して過呼吸発作を起こし、失神する人が続出、消防車・救急車が何台も出動する騒ぎになったそうだ。

コンサートの後、代理店経由で ALFEE から帆船日本丸に寄付が届き、そのことが銘板に名前がある所以だと判明した。
ALFEE はその後、横浜の赤レンガパークや横浜球場でもコンサートを開催している。

帆船日本丸と ALFEE（ツアー・ブックの一面）

頂いたツアー・ブックを見ると、”50 周年―風の時代・春“となっており、4 月 3 日から 7 月 7 日までに間に、北海道から九州まで 22 会場で 28 回の公演を行い、横浜では 6 月 12 日に神奈川県民ホールで開催されていた。2 日間公演が行われた会場で、2 日続けて見る人がいたと聞いた時には驚いた。
帆船日本丸での撮影は、2 月 26 日（月）の休館日に実施され、3 人のサインが残っている。



船内展示のサイン

・・・28 回の公演で何人が、この”ツアー・ブック“を眼にしただろうか？
・・・・何人が、この“ツアー・ブック”の中の帆船日本丸に関心を持つだろうか？
・・・・・そして、何人が、この帆船日本丸を見学に来てくれるだろうか？

完

船内各所で撮影された ALFEE の写真がツアー・ブックを飾る。（ツアー・ブックから無断転載）

夢

米原　健一

1　はじめに

何度も同じ夢を見る人は多くいると思う。私も、同様である。

子供の頃からよく見るのが天井の夢で、天井板の木目模様を見上げているような情景が出てくるが、自分は立っているのか横になっているのか分からない。あまり感じがよくない夢であるが、考えてみるとそのような天井の家に住んだ記憶がない。不思議。

４０歳くらいからであろうか、船の夢をよく見るようになった。その船は、以前の乗り組んだ船のようであったり、また、全く記憶にない船のようであったりする。

夢というのは何だろうか。なぜ見るのだろうか。何を意味するのだろうか。

2　夢とは

夢とは、睡眠中にあたかも現実の経験であるかのように感じる、一連の観念や心象や幻覚のことをいい、視覚像として現れることが多いものの、聴覚、触覚、味覚、運動感覚などが伴うこともあるらしい。

睡眠中になぜ夢を見るのか。

睡眠中の脳の活動には、脳が活発に働いているレム睡眠と、大脳が休息していると考えられているノンレム睡眠とがあり、夢は主にレム睡眠状態のときに見る現象という。レムとは、Rapid Eye Movement(眼球休息運動)の略の REM（レム）で、レム睡眠中には眼球がぴくぴく活発に動くことからこのように呼ばれているという。

人が眠ると、ノンレム睡眠から始まって一気に深い眠りに入り、眠りについてから１時間ほどたつと、徐々に眠りが浅くなり、レム睡眠に移行し、個人差はあるが、９０分周期でレム睡眠とノンレム睡眠とが一晩に３回から５回繰り返されるという。レム睡眠中では、脳が活発に動いていて記憶の整理や定着が行われているそうだ。

夢については昔から研究され、いろいろ説明されているようだが、結局のところ、なぜ夢を見るのかについてははっきり分かっていないという。

3　船の夢

（1）渓流を遡る。

私が最もよく見たのは船が渓流を遡る光景である。写真のような左右両側にも前方にも岩が出ている渓流を。右に左に岩を避けながら進んでいく。当然川底が見えるくらいの水深であるはずだけれども乗り揚げることはない。そうこうするうち夢は終わる。船はどうも２代目進徳丸のようである。同船には大学４年生の１２月から始まる長期実習の３箇月間、いわゆるドサ回りの期間に乗船し、航海訓練所に就職したあとは同船の用途廃止が決定されていた昭和５８年４月次席一等航海士として乗り組み、同年

１０月１日用途廃止後は係船当番とし翌５９年８月まで保守に当たった。就職後の印象が強いのだろうか。

（２）帆船で航海する。

次によく見る夢が帆船に乗り組んでいるもので、船は明確ではないが、マストや居住区の様子からどうも２代目日本丸のように思える。

２代目日本丸には就航１箇月ほど前から勤務し、就航後は１年半の間次席一等航海士として乗り組み、いろいろ貴重な経験を積んだ。

帆船での夢は、いくつかのパターンがある。

その①　帆走しながら島と島との狭い水道を通過する。

真後ろから風を受けてヤードを正横にしたまま快走中、前方に二つの島があり、その間の水道に向かって進む。しかしその水道の幅がたいへん狭く、どう判断してもそのヤードの状態ではヤードの端が左右の各島に衝突する状況であるが、そのままどんどん進行する。

なぜか水道を通過する場面はなく、その次には島と島との間を通過し後方に両島が見えており、船体に損傷などの異常はなく、その後どこかの島の湾に錨を入れる。そして上陸して未舗装の道路と平屋の民家が建ち並ぶのどかな村に立っているところで夢が終わる。

この島は、帆船で訪れたことがあるハワイ島のヒロのように思われるが、はっきりしない。

その②　帆走中のフード前やメインマスト付近の甲板上でマストを見上げたり、ヤード上で作業に当たったりする。

今、振り返ってみると、実習生を７０人も８０人も乗せて、約４０日もかけてアメリカ西岸に行ったものだと思う。よく事故がなかったものだと、実習生にも乗組員にも、感心する

（２）そのほかの船の夢

その①　船内を巡視するなどして歩き回る。練習船では、毎日２０時の巡検時や夜間の航海当直後に船内を点検して回っていたが、このことだと思われる夢もよく見た。船尾付近からスタートして乗組員や実習生居住区のほか機関室や貨物船のような大きなホールドを回り、船首付近を通って船橋を目指すのだが、なぜか船橋には行き着かず、自分の部屋を探して士官居住区をうろうろするようになる。船内の状況や部屋の配置から、どうやら一等航海士の部屋を探しているようであり、居住区をうろうろしているところで夢は終わる。

その②　出港操船や比較的狭い海域を航行する。

大桟橋に似た細長い岸壁に出船係留している状態から出港するところや、狭いドックに他船と前後に並んで入っている状況から出港後東京湾を北上して東京に向かう夢や、三河湾や瀬戸内海のような、あるいは港内などの狭くて船舶が多い海域から広い海域に出て行く夢もしばしば見た。

面白いのは、当直や報告のために船橋や船長室に行こうとするのだが、デッキとデッキの間に大きな段差があってなかなかたどり着けない。しかし、そのうちどうしてか目的の場所にいる。その途中は飛んでいて分からない。

船は、その状況から、船長として乗り組んだ２代目銀河丸、２代目青雲丸に思える。

そのほか、たまに見たのが、タンカーやコンテナ船のような大きな船舶の船橋や煙突付近に立っている夢、鉛色の空と海の北太平洋を多数の大型船が大きなうねりに乗って日本に向かって航行している夢、大きな島の周囲を航行して北の海に向かう夢、断片だけで説明できない夢などがある。

４　終わりに

船の夢の特徴は、何度見ても絶対に事故に至らないということである。

現役の頃、同期の航海士や船長に夢のことを尋ねたところ、やはり同じように見ると応えた。しかも事故にはならないという。ところが何人かの機関士・機関長にも同じ質問をしたところ、見ないという。

この夢を見る現象は、航海士や船長に限るのか、それとも、個人差があるのだろうか。

夢が付いた言葉には、正夢、夢占い、悪夢などがあるが、私が見るのは強く記憶に残っていることを思い出して夢として見るのであろうから、正夢でも悪夢でもない。

ところが年齢とともにだんだん見る回数が減ってきて、７０歳を過ぎてから船の夢はほとんど見ることはなく。天井の夢も見ない。

年をとると夢を見なくなるのだろうか。

夢は、見ようと思っても見られるものではない。約２０年前に亡くなった両親の夢を見たいと思っているが、２０年間、見たことがない。

夢とは不思議なものである。

（写真）上から順に

渓流、２代目進徳丸、２代目日本丸、２代目日本丸の上から見たところ

２代目日本丸におけるヤード上での作業、２代目銀河丸、２代目青雲丸

以上

Da vinci X って ？

－ Da vinci から hinotori へ － （会誌 13 号続編）

古瀬　文晴

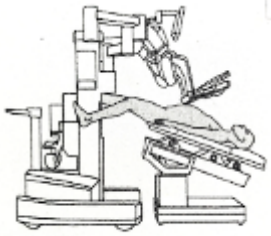
１．俎上の鯉は Da vinci X にすべてお任せ。

俎上の鯉の心境のまま入院日当日。PCR 検査については、新型コロナウイルスの分類が 5 類へ移行され、以前は検査、判定で 2 時間を要した PCR 事前検査もなく、面会付き添いは手術前後と部屋で 15 分、談話室なら 30 分と緩和された。

担当看護師から、入院患者用リストバンドをはめられ、夕食後は飲食禁止と下剤及び経口補水液 OS-1 を指定時間内に規定量を飲むこと、更に翌日の手術前の説明、術後の院内での入院中の生活等についての説明を受け、後はすべて Da vinci X にお任せとなる。

・**手術日当日：**早朝、経口補水液アルジネートウォターを飲み、その後下剤、浣腸等処置後歩いて手術室に向かう。面会の家族と別れ、10 室ある手術室の中で Da vinci X が配置されている広い手術室は、前回 11 月の生検の際の手術室とは別の部屋であった。

Da vinci を操作する医師は、**ダビンチパイロット**と呼ばれ、Certification of Da Vinci SystemTraining as a console surgeon（ロボット手術術者認定）の資格を持った術者（医師）で、手術スタッフは主治医を含め医師 3 名、麻酔科医師 1 名、外科看護師 3 名、Da vinci エンジニアなどが手術開始から終了までを担当したようだ。



手術の体位（イメージ）

直ぐに麻酔科の医師により麻酔液を背中に接種され、マスクを当てられたまでは覚えているが、それ以降手術用ベッドを 25 度程度頭をさげた状態（右図の手術の体位イメージ図）で行ったたようだが、手術室を出るまで覚えていない。

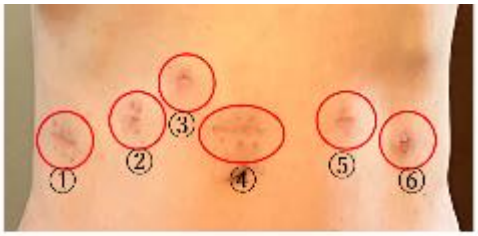
手術時間は入室から退出迄約 6 時間に及んだが、麻酔科担当医師の事前説明の通りの時間であった。その後、ICU が満床のため ICU に相当する HCU（High Care Unit）に移動、翌朝病室に戻った。

手術終了後、摘除した前立腺と精嚢を主治医が手のひらに乗せて妻に見せた様で、摘除した前立腺は柔らかく**ふにゃふにゃ**した感じだが、一部ゴツゴツした部分もあった様だ。

看護師さんの話しでは医師たちから Da vinci X の導入の話が積極的にあったようで、南多摩保健医療圏の医療機関で初めての導入であった。医師会の役員をされているホームドクターの先生も Da vinci X のデモを見学された様子で、当初、離島に計画していたが遠隔操作は都内からできるが、ロボットアームなどは現地に置かねばならず、それに付随するいろいろな面から離島の設置は困難で残念ながら実現には至らなかったようだ。

Da vinci X による手術用の穴は直径 1cm 程度の穴が 5 箇所と 3cm 程度の穴が 1 箇所。4 箇所の穴（写真の①、②、⑤、⑥）からカメラと鉗子類を、あとの 1 箇所（③）は血液排出ドレン管、そして大きな 1 箇所の穴（④）から、摘除した前立腺と精嚢を袋に入れ体外に取り出す穴で手術前の説明の通りであった。

・**術後２日目：**37 度台の熱のため、解熱剤の点滴を実施。最高血圧が 80 に低下、更に吐き気もあり歩行訓練初日の予定が中止となった。
採血と小型Ｘ線撮影移動装置を部屋に持ち込みベッド上で撮影あり。



（筆者の実際の穴（直径約 1 cmX5 か所、約 3 cmが 1 か所））

・**術後３日目～５日目：**本日より歩行訓練を開始、看護師に付き添われ点滴液、尿バッグ、鎮痛薬自動投入ポンプの 3 点セットを点滴用スタンドに取り付け入院フロアを 2 周したが問題無く、術後 3 日目から単独歩行訓練となる。

採血あり。尿漏れ対策の運動と骨盤底筋体操を開始。

（鎮痛薬自動投入ポンプ取り外し）鎮痛薬の点滴のために手元に鎮痛薬自動投入ポンプをセットしていたが、この鎮痛薬自動投入ポンプの開発により、自動的に鎮痛薬が術後数日間投入され、患者の苦痛は極端に減少するようになったと言う。**「昔は痛みを我慢するのが当たり前。今は逆に痛みを我慢することが、病気の回復を遅らせる」**と言われ、実際に退院するまで術後の痛みは全く感じられず、看護師もこの装置がいかに素晴らしく、医療援助をしているかを話してくれた。

・**術後６日目：**左手の予備用点滴針を取り外したが一度も使用することがなかった。

一方、右手には点滴薬と点滴針の途中に点滴をコントロールする機器をセットしていたが、食事時や就寝中もときどき腕が曲がった状態が続くと流量アラームが鳴り、リセットのためナースコールをしなければならなかった。以前、全乗組員日本人 11 名のパイオニアシップや近代化実証実験船に、ある時は通信長、またある時は航海士、機関士と 3 種類の免許を取得して乗船していた際、特に機関部Ｍ０（エムゼロ）（夜間機関室無人化）当番の夜、アラームが鳴れば機関室に行き、一人でその処理をしなければならなかった。相手が入院患者か船かの違いで看護師と立場は異なるがナースコールやＭ０（エムゼロ）アラームが鳴れば、処理をしなくてはならない点、職場は違えど一緒とも思えた。時折、点滴を取り換えに来る新人看護師が時計を見ながら、何秒間に何滴落ちたかを慎重に観察し点滴速度を調整していたが、ベテラン看護師になると落ちる速度だけ見て調整、やはりベテランはすごい！この点も船と一緒だ！

・**術後７日目：**午後 栄養管理サポートチームの管理栄養士の説明を受けたが、我が家で実践していることが多く、このままの食生活で十分と言われ、熱中症対策用飲料水として効果のある経口補水液 OS-1 の作りかたを教えてくれた。午後、排尿ケアチームメンバーによる「骨盤底筋の尿漏れ体操」の指導あり。

（点滴終了）：最後の点滴が終了し針が体から抜かれた。残り体内に接続されている医療具は、血液排出用ドレンチューブ、排尿用チューブと縫合部分の抜鈎の 3 点を残すのみ。

（点滴針は金属針ではない　どうして刺さる？）:看護師が点滴針を抜いたあと、抜いた針先を金属製容器の縁で押さえると、上下左右に鞭のように良く撓った。**「金属針が撓う、ど**

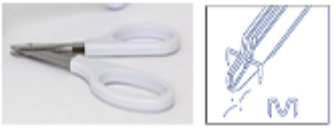
う言う事？」。実際には点滴に用いる針は二重構造になっており、金属性の針の外側に柔らかいカテーテルの管がセットされ、腕に挿入した時点で、カテーテルの管だけを血管内に残して金属針を抜くと話してくれた。点滴中は**『金属針が刺さっているわけでなく、プラスチック製の柔らかい「管」がささっており金属針ではない』**　これが点滴針の凄さの秘密で、もし今後も点滴をすることがあれば、針の部分をじっくり見てみたい。

・術後８日目：（血液排出用ドレン管取り外し）：

体内に溜まっていた血液量も少なく、色も薄くなり血液排出用ドレン管を取り外した。一瞬スーッとする感じで数秒の出来事。船でドレンコックと言うとタンクの下の方にあると思われるが、ドレン管は開けた６穴の一番上の部分（**前ページの写真③**）で穴の周りの出血はガーゼで確認ができる。看護師によると、炭酸ガスでお腹を膨らませ、体内の血液の溜まる場所にドレン管を入れると言う。今日以降に体内に溜まると思われる血液はドレン管がないため自然に体内に吸収される。内出血し黒ずんだ部分がしばらくすると、きれいになるのと一緒だ。

（体内血液排出用ドレン管）

（抜鉤）：ホッチキスと言われ興味を持っていたが、材質は異なるが形状はペーパーホッチキスと変わらず、医師がはさみを使う要領で、リムーバー先端部を針の中央に差し込み挟むと、針が変形し簡単に抜けたが、感じとしては毛抜きで毛を抜いたときのようであった。看護師が抜いた針を見せてくれたが、金属製容器内の抜いた針はどれもＭ字型に曲がっていた。



（抜鉤用リムーバーと針を抜いた状態）

（抜鉤後の手術穴の一部）

・術後９日目

（エコーによる残尿検査）：病室に小型測定機搬入、看護師が検査。

（主治医との面談）：グリソンスコアは入院前に説明のあった**“８”**でなく、**（4+3=7）“７”**と変更され、**「中程度の悪性度の前立腺がん」**であると説明を受けた。さらに**「好きな日に退院してよろしい」**との説明をうけ、安全と週末を考慮し４日後の来週月曜日とした。

（尿管取り外し）：痛くも無く瞬間的にスーッと抜けた。前立腺等を全摘除したため膀胱と尿道が直結しているが、見た目は全くの正常人と変わらず。しかし、失禁状態でじゃじゃ漏れ、まさに飲んだらすぐ出る**「ミルク飲み人形と同じです」**と医師に話したら「そうか」と言っただけであった。看護師から排尿日誌なるデータ記入用紙を渡され、退院時迄記入することとなったが、排尿日誌のデータが今後の排尿ケアチームの資料となるようだ。

・術後１０日目～１３日目：排尿は少しづつ、「ミルク飲み人形」状態から改善されてはきたが、完治まで 3 か月（開腹手術では 6 か月）と言われているので、焦らず、慌てず・・・。「尿意有りトイレでの排尿量と尿意無し尿漏れパッドへの排尿量」は計量カップとパッドの重さを秤で計測し 8:2 まで改善、主治医も「優秀」と言いながら部屋を出て行かれた。

・**術後１４日目　退院日：**。前半は手術と術後の対応、後半は装着していた管類も取れ、骨盤体操などが追加された期間であったが、尿漏れパッド装着以外はすべて元に戻った。看護師から**激しい運動、刺激物、重い物を持つのはしばらくは禁止**との指示があり、装着していたリストバンドが外され２週間ぶりで我が家に戻った。

２．おわりに

36 秒に一人・・・。世界では今、こんな頻度で Da vinci での手術が行われているという。そうすると、私が Da vinci X で行った手術も、36 秒に一人に換算されたのか？・・・。

2018 年の TV ドラマ**「ブラックペアン」**で、「嵐」の二宮和也が心臓外科医を演じ、ドラマの中で Darwin(=Da vinci)と呼ばれる医療用ロボットの活躍が話題となったが、本年 7 月から続編**「ブラックペアン２」**が放映され、AI を利用した医療用ロボット El Cano Darwin が登場し、ロボットの活躍により将来的には手術の際の医師不要論まで出ているが・・・。

更に、会員 F 氏が 10 数年前に読まれた**「ゴルゴ 13　１万キロの狙撃」**の中に**レオナルド**（=Da vinci）という遠隔操作の手術ロボットが活躍していたと教えて頂き、早速読んでみたが、既に十数年前にこの世界にも最先端医療技術が描かれていることを知り驚いた。なお、ガイド待機室に読み終えた同書を置いてあるので、興味があればご覧いただきたい。

こうして、アメリカ軍隊で負傷兵のために開発された Da vinci は、20 数年間にわたり手術支援ロボットの地位を独占してきたが、基本特許が切れることで日本人医師のニーズに合った**国産の hinotori**(ヒノトリ：川崎重工業（株）とシスメックス（株）の共同出資により設立された（株）メディカロイドが開発) が 2020 年に製造販売承認を取得。本年 6 月現在、2000 件の手術実績があるとのこと。

1 台数億円する Da vinci の価格と年間数千万円になる維持費を考えると、価格面から Da vinci を導入ができなかった病院へ販路を拡大、サイズも小型化し既存の手術室でも使いやすくすることにより、今後販売拡大につながるものとみられている。

今回の全摘出術は南多摩保健医療圏の医療機関で初めて導入された最新の医療機器 Da vinci X による手術で、2023 年 2 月本格稼働の 3 か月後の手術で実績もまだ多くはなかったが、**ダビンチパイロット**と呼ばれる資格を持った術者（泌尿器科医師）、麻酔担当医師、外科看護師、Da vinci エンジニア、泌尿器科看護師、栄養管理士、排尿ケアーチームメンバー等様々な方と家族の協力があったことが早期回復に繋がったと思っている。

退院 3 週間後の医師との面談では**「PSA の値は 0.008 以下でほぼゼロに近い」**と説明され、本年５月の術後 1 年後の検診でも同様の結果で、医師が**「完璧だ！」**と話された。

長年行っている「足ツボ健康法」をやりながら、摘除した「前立腺」、「生殖機能」のツボまでいつもの通り押してはみたもののさて効果は？・・・。　　(完)

(参考)・「ダ・ビンチ・コード」及び「Agora のメダル」に関する記事。

・町田市民病院入院の手引き、医師の説明文の一部及び、Da vinci X 導入パンフレット。

・Da vinci、hinotori の Wikipedia による解説。　・「ゴルゴ 13　１万キロの狙撃」(リイド社)。

・TBS―TV：「ブラックペアン」。　・NHK E テレ：「きょうの健康前立腺癌」、「チョイス前立腺癌」。

昆虫食・ラオス旅行・阿波丸事件

角田　昌男

＊＊＊＊昆虫食自販機

昨年のある日、JR 関内駅前を歩いていて、駐車場ビル前に一際目立つ自販機を見つけた。何と昆虫食の自販機である。関内駅は月に 1～2 回通っているが、設置場所が駅の中央付近からやや北口寄りにあり、駅の南口あるいは北口を通って、海洋会館へ行く道筋には面していないため、今まで気付かなかったのだ。調べてみると、コインロッカーの設置・管理を手掛けている会社が据え付けたもので、東京や静岡などに 10 台、神奈川県内には相鉄線瀬谷駅前に続いて 2 台目（2022 年 11 月設置）だという。

21 世紀になって世界人口急増による食料危機が懸念されている中、国連食糧農業機関（FAO）はその解決策として昆虫食を推奨している。中でもコオロギは特に栄養価が高く牛肉の約 3 倍のタンパク質を含むと言われ、スーパーフードとして注目を集めている。そんな折、長野県茅野市に誕生したのがクリケットファームという食用コオロギの養殖・加工会社だった。ところが、今年になってその会社が参入から僅か 3 年で破産手続きに至ったとのニュース、「食料不足を救うとして注目を集めていた食用コオロギの会社が倒産」とあった。国内における昆虫食は、イナゴ、蜂の子、ザザムシなど長野県を中心とした地方食はあっても、まだまだタンパク源を補う食い物としての馴染みはなく、売り上げが伸びなかったのであろう。しかし日本全国には、昆虫食に関わるベンチャー企業が結構な数あるようだ。自販機で売っている缶詰には数県の生産地名が書いてあった。

昆虫食を云々する前に、食品ロス問題があるではないかという人もいるだろう。「食べられるのに廃棄される食品がいわゆる食品ロス」だ。消費者庁によれば、日本の 2021 年の食品ロスは 523 万トンで、世界中で飢餓に苦しむ人達への食料支援量（年間約 440 万トン）の 1.2 倍に相当し、国民一人当たり茶碗一杯分の食い物が毎日捨てられている勘定になるとのこと。モッタイナイから無駄をなくそう！飢えで苦しんでいる人がいるのに廃棄するとは何事か！・・・それ以上に食品ロスは、地球温暖化防止、エネルギーの無駄使い・CO2 排出量増大の観点から問題なのである。

勿論、食品ロスを減らすことは重要だ。しかも世界人口は確実に増加していく一方で、温暖化による洪水・旱魃、愚かな戦争による土地の荒廃、生産従事者減等による食料生産量の減少が続くことだろう。しからば、同じ量の可食量で牛肉の 3 倍のタンパク質が得られ、必要な水は牛の 5000 分の 1 、CO2 排出量は 25 分の 1 で済むコオロギ食が温暖化や飢餓から人類を救うことになるのかもしれない！とは言え、神戸牛とは言わないまでも、国産牛の霜降り肉の代わりにコオロギの粉で作った代用肉のすき焼きでは、正直言って食欲が湧いて来ないのも事実だ。

＊＊＊＊昆虫食体験

子供の頃、我が家の燃料は薪であった。木々の葉が落ちた晩秋、山に行って雑木を切り出し、大量の薪を納屋の軒下に積み上げて乾燥させる。そして太いやつは順次割って燃やしやすい薪にするのである。小学生の私にとって薪割りは、重要な仕事・家事手伝いだった。その仕事には一つの楽しみ、余禄があった。半乾きの薪を割ると時々中から鉄砲虫が出て来る。鉄砲虫とはカミキリムシの幼虫のことで、木に開けられた穴がまるで鉄砲玉が通ったような丸い穴になっていることから、全国的に鉄砲虫と呼ばれているそうだ。その日のノルマを終える頃には、鉄砲虫が 10 匹以上捕れているのでフライパンで炙って喰う。当時はまだ戦後の食糧難の時代、何ともクリーミーで美味く格好のおやつだった。（カミキリムシの幼虫を喰う文化は世界中にあり、あの博物学者ファーブルさえその食味を絶賛したという。）また、その鉄砲虫は川釣りの生餌としても使った。蜂の子同様、喰いつき良好、最高の釣り餌だった。蜂の子と言えば、アシナガやスズメバチの巣を見つけ、働き蜂に刺されないよう工夫、細心の注意を払って巣を採り、中から幼虫を取り出した。蜂の子採りは、危険を伴うスリルな遊び、しかし鉄砲虫同様フライパンで炙ったものは大変美味であった。(酒の絶好のツマミでもある)。イナゴは何度か田んぼで捕まえて来て母に渡し、佃煮に加工しておかずとして喰った覚えがある。思えば、鉄砲虫、蜂の子、イナゴの 3 種類が私の昆虫食、小学生の頃の思い出につながる。中学生の頃になると、燃料はプロパンガス、飯炊きは電気釜となり薪割りをしなくなった。また、部活動などで忙しく、自然と遊ぶこともなくなってしまった。イナゴの佃煮を見て気持ち悪がる人もいるが、子供の頃に味を知った虫を喰うことには、少しも抵抗がない。居酒屋等で見つければ好んで酒のツマミにする。ただ、長野や岐阜当たりでは定番だというザザムシ、タガメ、カイコの蛹は味わったことがない。一般的には昆虫は食い物ではないのだから、珍味で美味いとはいえ、蜂の子やイナゴを嫌う人の気持ちがわからないでもない！

＊＊＊＊ラオス旅行

今から丁度 10 年前、横浜遊学校の仲間（ガイドの会の大河原顧問もご一緒）で、ラオス旅行に行った。その際古都ルアンパバーンの朝市を訪れ、狭い路地で売っている食品の種類の多さとその売り方に驚いた。観光用ではなく、地元の人々の生活必需品、食料中心の市場であり、メコン河で採れる色々な魚類からラオスの自然がもたらす豊富な恵みを、主として女性の露天商が地べたに並べて売っていた。生きた川魚、蛙、鶏、蛇、タガメもいたし、大型のネズミかと思った齧歯目動物の焼き物は、リスだった。ラオスの朝市は、さながら熱帯ジャングルから捕れる自然食の見本市でもあった。

王宮博物館

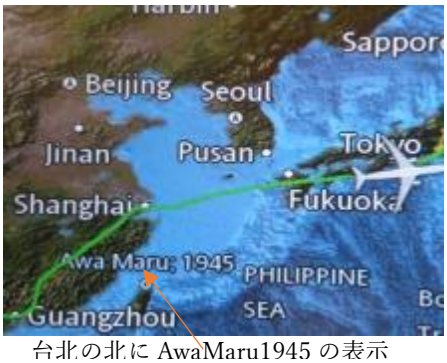
ブッダパーク

黒い虫はタガメ

蛇・蜘蛛・サソリ

ラオスの主食は「もち米」。野菜類も豊富で、魚肉類の味付けも口にあった。フランスの植民地だったこともあり、朝食のフランスパンも美味かったし、昼夜共に食事前に飲んだビールの味も喉ごしも申し分なかった。しかし幸か不幸か、レストランの食事では、昆虫が食卓に出ることはなかった。多分特別に注文すれば、酒のツマミに味わえたと思うのだが・・・次回ラオスを訪れるチャンスがあればトライしてみよう！

＊＊＊＊阿波丸事件



台北の北に AwaMaru1945 の表示

今もラオスと日本間の直行便はなく、その時は往復ともベトナム航空サイゴン経由だった。帰りの機内で何気なく TV に映し出される航空路図を見ていて、バシー海峡付近に Awa Maru1945 とあるのを発見した。この表示は、あの阿波丸事件に違いない。日本郵船の貨客船 （11292 総トン全長 155.5m 幅 20.46m 深さ 12.6m 吃水 6.10m 速力 20.8 ﾉｯﾄ、1943 年 3 月 5 日 竣工）の阿波丸は、日米間の協定で安全航行を保証された非武装の緑十字船だった。しかし太平洋戦争末期、シンガポールから民間人を中心に 2,000 名を超える乗客乗員を載せて日本に向かっていた 1945 年 4 月 1 日、米海軍潜水艦クィーンフィシュにより撃沈された。生存者は潜水艦に収容された司厨員 1 名のみであった。米政府は非を認め潜水艦長を処分、賠償問題は戦後処理の中で食料援助の借款棒引きと引き換えに請求権を放棄したという。戦後、阿波丸の残骸が中国福建省沖合 11nm 水深 60m付近で発見された。中国政府は 1977 年から極秘に潜水調査・引き上げ作業を行い、1981 年までに回収した遺骨 368 柱や遺品 1683 点を 3 回に渡り日本側に引き渡した。そして、個人名の判明した物は遺族に引き渡され、遺骨は東京・港区の芝増上寺と奈良市紀寺町の璉珹寺の慰霊碑・慰霊塔に分骨されているとのことだ。

ところで、阿波丸には何人乗船していたのか、種々資料を見たが今一はっきりしない。日本政府が当初米側に賠償請求する際には 2003 人、その後 2045 人と変更したとのことだ。そして、芝増上寺の阿波丸殉職者合同慰霊碑に刻まれている数は 2070 名であるが、その後の調査では、2269 人以上というものもある。このように乗船者数が確定できていないため、2000 人以上と曖昧としている資料が多いということなのだろう。

私がラオス旅行をしたのは、既に 10 年前。その時ベトナム航空のルートマップ上に何故阿波丸沈没位置が？と思った。マップの元は海図で、沈没船が表示されているものをそのまま航空用に使用したとも解釈できるが、水深 60m にある沈没船は障害物ではない。とすれば、戦争に伴う理不尽な悲劇の象徴として海図に載せたのだろうか？

この阿波丸事件で思うのは、戦争の悲劇と共に今も続く世界各地での紛争のこと。自然や文明の破壊、食料生産減、難民増、CO2 増加等を考えると昆虫食や食品ロスを論ずる以前に平和こそ重要だと気づかされるのである。（戦中生れ！）　　以上

茅ヶ崎市と弁財船

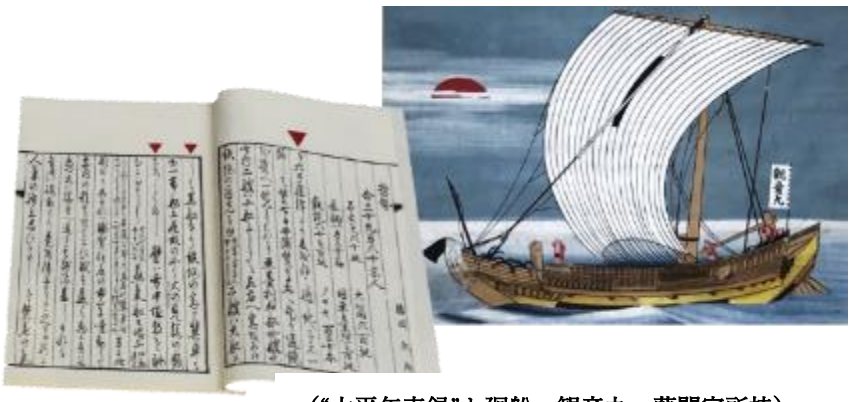
林　作治

外航海運会社勤務中は陸上勤務が長く外航乗船経験が少ないので、ガイド諸兄の経験談や会誌を読み帆船日本丸ガイドのネタに使わせて頂いています。お陰様で訪船者との会話を楽しみ、ガイドに生き甲斐を持つことが出来、ガイドの皆様に感謝しています。

帆船日本丸ガイドとは少し話がずれますが、小生が生まれ育った神奈川県茅ケ崎の**柳島湊**を拠点に活躍した帆船と自然環境に恵まれた健康都市・茅ケ崎の紹介をします。名の通った人たちが入院療養した結核療養所“南湖院”の存在と西に富士箱根連山、伊豆半島、沖に伊豆大島、東に江の島、三浦半島を望み広大な相模湾を前にした湘南茅ケ崎の名前は、皆さんに良く知られています。今は帆船ガイド中に茅ケ崎出身と言うと加山雄三、サザンオールスターズは話題にはなりますが、歴史ある茅ケ崎に興味を持つ方は少なく残念でなりません。そこで縷々帆船ガイドの繋ぎに話している茅ヶ崎の歴史を皆さんにも知ってもらおうと本誌に投稿しました。興味を持ってもらえれば幸いです。

市内には河内源氏、源頼朝の祖先源頼義が平安時代に陸奥の豪族阿部氏の反乱を平定（前九年の役）に向かう折り源氏が信仰する京都の石清水八幡宮を勧請して戦勝祈願をした**鶴嶺八幡宮**があります。又　頼義の長子、陸奥守八幡太郎義家も奥州の豪族清原氏が起こした戦乱を平定（後三年の役）に向かう際同宮に戦勝祈願しています。この平定で源氏は東国に勢力の基盤を築き藤原清衡も奥州藤原氏 3 代の基を築いたことはご存知の通りです。源義経を祀る御霊神社や弁慶の弁慶塚もあり源氏が関東に進出する第一歩の最初の神社が鶴嶺八幡宮であったことはあまり知られていません。

源頼朝は、重臣稲毛重成が亡妻（北條政子の妹）の為に旧相模川に架けた橋の渡り初めの後落馬が原因で亡くなったと言われています。この付近は相模川と言わず馬入川（ばにゅうがわ）と称し、橋も馬入橋と呼んでいる。頼朝の乗る馬が突然暴れだし川に入り込んだことから“馬入り川”やがて「馬入川（ばにゅうかわ）」といわれ、橋も馬入橋と呼ばれるようになったとのことです。小生の子供の頃も、相模川と言わず馬入川と呼んでいました。その馬入橋の杭の丸柱が関東大震災の地震で田んぼの中



（“太平年表録”と廻船　観音丸　藤間家所持）

から隆起し**“国史跡　旧相模川橋脚”**として保存されています。
江戸時代には、富士山の麓の山中湖を源流に神奈川県の中央を流れ相模湾に至る国の一級河川“相模川”、の河口左岸に**柳島湊**がありました。幕末に活躍していた北前船、菱垣廻船、樽廻船等の千石船の原型と言われる弁財船の船主が、農業と兼務で廻船業を営んでいた記録が残されています。記録によると柳島湊を拠点に活躍したのは４００石型の弁財船で海路に観音丸、不動丸、福徳丸の３隻　川路に４隻の帆掛船を配船していたとあります。（前頁写真参照）

柳島湊に川船（帆掛船）で運び込まれた相模川流域や近郷の年貢米、材木、雑穀・雑貨は、この湊で積み換えられ相模湾、江戸湾を航行して江戸や伊豆へ輸送されていた。遠くは、東は仙台、西は遠州灘を経由して瀬戸内海まで延航していたとのことです。最も活躍した弁財船の船主、藤間家の１３代　藤間善五郎（柳庵と称す。１８０１－１８８３）の家系は室町時代の中期から続いており柳島村（現茅ケ崎市内柳島地区）の名主を代々務めていたことが判っています。柳庵は文人としても著名で“年中公触録”、“太平年表録”は当時の社会情勢知ることができ茅ケ崎の歴史資料になっています。柳庵はペリー率いる黒船を入港３日後には見に出かけたと記録に残しています。
残念ながら柳島湊は関東大震災で土地が隆起しその後の防波堤構築等で現在は面影もありません。

明治３２年頃の茅ヶ崎は、田舎の村でした。風光明媚で過ごしやすい温暖な気候を知った高田畊安（妻は勝海舟の孫娘）が、東京駿河台の東洋病院の分院として茅ケ崎の柳島村に結核療養所“南湖院”を創設しました。創設時の入院患者３人の 1 人に勝海舟夫人がいたことその後大菩薩峠の作家　中里介山、小説家・詩人　国木田独歩、琵琶湖周航の歌の作曲家　吉田千秋、雑誌「青踏」の編集者　平塚雷鳥の姉、石川啄木の次女など有名人やその家族の入院療養等で茅ケ崎の名前が陽の目をみるきっかけとなりました。同じ頃、近代歌舞伎を生んだ俳優９代目市川団十郎が広大な別荘を構え孤松庵と称し亡くなるまで住んでいたことで多くの有名人や企業人が来訪し又近郷に住むようになりました。この地域は**“茅ケ崎の別荘地”**と言われるようになり所謂高級住宅地となったのです。

終戦の年の昭和 20 年 8 月末に、連合国軍の大規模艦隊が相模湾一杯に集結した記録写真を覚えています。

終戦後、実は昭和 21 年 3 月 1 日に茅ケ崎の湘南海岸と千葉県九十九里浜に連合国陸軍部隊を上陸させ東西からの首都攻略を実施する**“コロネット作戦”**計画があったことが明

相模湾に集結した連合国軍の大艦隊

らかになりました。しかし、幸いなことに作戦実行の前年に終戦となりました。戦争が長引きこの作戦が実行されていれば、茅ケ崎の防衛力はせいぜい竹やりと消火バケツだったと思うと、沖縄戦を上回る戦禍と死者となった筈で想像するだけでもぞっとします。

奇跡的に戦禍を免れたお陰で終戦時の茅ケ崎は海岸近くを通る国道１３４号線は遊歩道路と言われ両側に美しい防砂松林が残されました。芋畑と田圃、清流の川、江戸時代から続く東海道の松並木と一里塚の遺跡、東海道線の架線の風景等が見られる極標準的な田舎の街が其の儘残りました。子供達とっては、生活は貧しいが泳ぎは海岸で、釣りを川で、木登りは神社の境内でと自由活発に逞しく育つ最適な地域でした。腕力、体力をつけるにはもってこいの環境でした。平安時代以降なぜか増えた神社と各社が持つ３４台の神輿が早朝から海岸に集合し海に入る暁の禊（みそぎ）と言われる県無形民俗文化財“浜降祭”が以前は7月１５日と決まっていましたが現在は祭日の“海の日“に開催されています。子供の神輿もあって浜降祭が待ち遠しく担いで町内を回った思い出があります。

浜降祭：日本お祭り推進協会

幸いなことに茅ケ崎は、関東大震災以降１００年を超えて大きな災害はなく、緑多い自然環境と比較的温暖な気候加えて穏やかな波打際に恵まれ夏場は海水浴客で賑わっています。駅から海岸に向かう通りには“雄三通り” “サザン通り”と名前を付け、“ハワイの姉妹都市”でもあり、明るい湘南茅ケ崎の宣伝に努めています。市の名誉市民の加山雄三の銅像が市役所前に極最近設置されました。明治の立役者岩倉具視の玄孫であることも銅像建立の一因かもしれません。都心の豪雨、冠水などを考慮してか、高層マンション群から逃れて移住する人も多く、人口が増えています。サーフィンがしたくて住いを茅ケ崎にした人も多く、海岸はサーファーで連日賑わっています。土日になると海岸沿いのサイクリング道路は、ジョギングする人達でにぎやかなこと、正に健康都市です。

心配性の小生から見ると、昔の田圃や沼地は埋め立てられ、木造家屋が増加し、火災地区にも指定され、豪雨になったら浸水家屋が多く出ることも予想されるので、これ以上の人口増は気になるところです。最後に投稿内容が、老人ボケ防止と老人特有の回顧談となり、出身地宣伝の観光案内となってしまいました。帆船日本丸ガイドと関係なしと叱られそうですがお許し下さい。　　**完**

茅ヶ崎市：人口約 24 万 5 千人、10 万 8 千所帯。市の花：つつじ、鳥：シジュウカラ

＊三大祭り

① 江戸時代の名奉行の遺徳を偲んで行われる春祭りの「大岡越前祭」

② スポーツ・飲食等の様々な催しが行われる「湘南祭」

③ 神輿が砂浜を乱舞し、茅ケ崎に夏を告げる「浜降祭」

④ 茅ヶ崎海岸の夜空を彩る「サザンビーチちがさき花火大会」

＊正月の風物詩・箱根駅伝の往路３区、復路８区

私の趣味と
米寿のカラオケ挑戦

安田　岩男

☆私の趣味１．２．３．

「趣味は？」と聞かれたら、私は、惑うことなく**第 1** に**「園芸、庭いじりです」**と答える。庭仕事が根から好きなのだ。

加えて、趣味の**第 2** に挙げるのは、**「カメラを持っての写真撮影」**であり、**第 3** は、いま一番熱を上げている**カラオケ**、それも米寿を迎えてのカラオケ挑戦、すなわち**「米寿のカラオケ挑戦」**だ。

私は、昭和 11 年(1936)、房総半島のほぼ中央部、やや九十九里浜寄りにある山村の長生郡長南町に生まれた。小さな山と田畑ばかりの田舎で、これという遊びも楽しみもない。子供のころは、よく仲間と山野を走り、小川に入って遊んだ。

船乗りを志して故郷を離れてからは、海上勤務に就き、子供のころ親しんだ自然相手の生活はできなくなり、もっぱら海だけの世界が相手となった。

学校を出てから練習船勤務となり、最初に配乗されたのは、初代進徳丸。東京駅から夜行列車で神戸に向かい、神戸港外で乗船した。

初めてもらった給料は、その一部を割いて、欲しかった小型カメラを買った。休みの日にはこれ片手に外出し、港の周辺を撮り歩いた。こうした若き日の**「カメラを持っての写真撮影」**が土台となり、趣味の第 2 になった。

その後、昭和 41 年に(1966)結婚して、民間アパート、公務員宿舎と借家住まいが続き、昭和 48 年(1973)にようやく横浜の片田舎にわが家を構えた。

これを契機に再び庭いじりを始めた。休日には、朝早く起きて庭づくりに精を出した。近所から不要になった植木を頂き、園芸店、植木市を見て回り、小さな安い苗木や草花を求めては、庭隅に植え込んだ。

庭仕事で土に触れていると、いつか無心で作業に没頭してしまう。歳を重ねた今もそうだが、ひと仕事終わってみると、心地よい疲れを感じ、気持ちはスッキリとする。

訓練航海の途次、色々な港を出入港したが、港の景観は一つひとつが違う。京浜港や神戸港などの歴史ある大型商業港は、それなりの特徴というか風格をもつ。一方、小型船がひしめく地方の漁港などは、似たような港の顔つきではあるが、それぞれ味のある景観を有し漁師の生活の匂いもしてくる。どれも画像として残したい景観だ。

毎年正月に咲く福寿草

☆ 米寿のカラオケ挑戦

私が 3 番目に出会った趣味といえば、口に出すのも恥ずかしいが米寿を迎えて本格的な挑戦を始めた**カラオケ**、ズバリ言えば**「米寿のカラオケ挑戦」**だ。

1）．カラオケとの出会い

先ず、前段として、**「カラオケとの出会い」**からお話をしていきたい。私は生来音痴で、50 歳半ばまでは、歌という歌は自分には全く縁のない、別世界のものと思っていた。そんな風だから、人前で歌える歌は、1 曲もなかった。

小学校高学年になるにつれ、自分は歌が下手であることを強くに意識するようになった。音楽の時間は一番嫌いで、皆の前に出て歌わされるときなどは、火の中に飛び込む思いでやったものだ。この歌嫌い意識というか、歌うことへの恐怖感とでもいおうか、これは大人になって、ますます高ずるばかりであった。

私は酒の席が好きだ。多少は飲めるし、酔い心地がなんとも素晴らしく、そして楽しい。仲間とは胸襟を開いて話ができる。だが、この楽しい宴席には、昔から歌がつきものだ。しかし、カラオケ時代の到来で、私の人生は闇の中に葬られたのも同然だ。楽しかった夜の宴席が、逆に苦しみの席となってしまった。それまでは、仲間の手拍子に合わせておれば、何も音痴が歌わなくても済んだが、カラオケ時代になって、歌は順番に、歌わなければならなくなった。

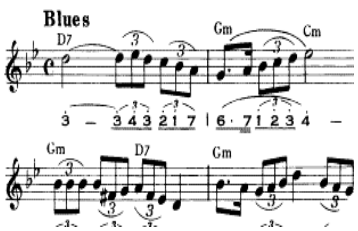
宴が進み、「では、そろそろカラオケでも」と声がかかると、それだけで酔いが吹き飛んでしまう。歌のご指名が来ると、「私は歌いません」（本当は、「歌えません」であるが・・・）と、ひたすら固辞し、時のたつのを待つのだ。

こんな私を一変させたのは、ある忘年会の席が開けた直後の、上司の一言である。
「安田くん、歌の一つや二つ、やった方がいいよ」と。言葉はやさしいが、そこには、
歌も仕事だという、厳しい響きがあった。目を覚ます一言であった。ここで、これまでできなかった歌に挑戦してみようと一大決心をしたのだ。

お正月、3 ケ日が明けるのを待って、息子の案内で横浜駅前の家電量販店に行った。そこで、レーザーデスク用デッキとマイク、それに歌の CD 数点を買って帰宅した。

その夜から、私の歌への挑戦が始まった。夜 10 時ごろから深夜まで、わが家に 1 台しかないテレビを占拠して、それにデッキを据えて練習を始めた。テレビの画像に合わせて歌詞を追うのだが、なかなか歌にならない。気づいてみれば、曲は、あっちの方に行ってし

♪砂山の砂を　指で掘ってたら
　真っ赤に錆びた　ジャックナイフが出て来たよ
　どこのどいつが　埋めたか
　胸にじんとくる　小島の秋だ～♪
♪薄情な女（やつ）と　思い切ろうと・・・



まい、室内は、怒鳴り声だけがあふれていた。こうして、静かであったわが家の茶の間は一夜にして調子はずれの歌の戦場と化してしまった。

以来、私が練習の支度をし出すと、それまで茶の間で団らんをしていた子供たちは、われ先にと2階の自室に撤退。遅れをとった家内も、最初の1番はお義理に聞いているが、1曲歌い終わり振り返ると、もう自席にはいない。耐えかねて別室に退散したのだろう。そんな家族の行動を無視し、最初の曲を毎晩10回、20回と歌い練習を重ねた。

そしていよいよデビュウの日だ。場所は、海洋会横浜支部のクラブ。選んだ曲は、裕次郎の「錆びたナイフ」とデュエット曲「二人の大阪」。初ステージがどうであったかは、いまは全然思い出せない。両肩を力一杯張り、マイクを強く握り無我夢中で歌ったのだろう。以後、ステージに立って幾度挫折しそうになったことか。そのたびに、周囲の人びとの暖かい励ましの言葉に力を得て歌を続け、ついに、人前でマイクを握り歌えるようになったのだ。

・・・・・・・・・・・・

時は流れて、数十年たった。何とか、人前でマイクは握れるようになったが、相も変わらず、カラオケは好きになれるものではない。宴会の後、有志でカラオケ店に流れる時は、前座を務めるのが精一杯だ。それほど楽しくもない。そんな時は、美声をだして良い声で上手に歌う同僚を、横目で追いながら時の経つのを待った。

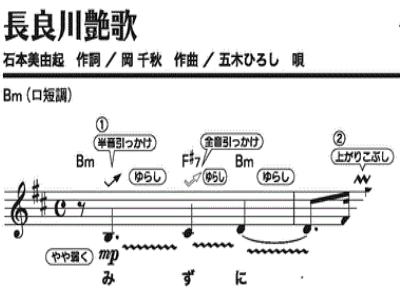
2）．30数年後、「米寿のカラオケ挑戦」

ある朝、横浜市の広報を見ていると、近くの中屋敷地区センターで、「カラオケ上達講座とボイストレーニング」の受講生募集記事が載っているのを見つけた。この記事を見て、「カラオケの講座」が中屋敷センターであり、生徒の募集をしているようだ、と家内に話した。家内からは「行ってみてはどうですか」と珍しく背中を押す返事が返った。直ぐに、センターに電話で概要を問い合わせたのち、わが家から比較的近い海軍道路を超えた向こうにある地区センター（徒歩約20分）を訪ねた。

そして、腹を決め、米寿の年を迎えての新たな挑戦をすべく、入会手続きを行った。米寿の恥さらしになるか、それとも自身の新たな生き甲斐を得るチャンスとなるか？

応募者は、募集者数16人の2倍になったそうで、2クラスが作られた。

♪ 水にきらめく かがり火は
　誰に想いを 燃やすやら
　あなた あなたやさしい 旅の人
　逢うたひと夜の 情けを乗せて
　こころまかせの 鵜飼い舟
♪ 好きと言われた 嬉しさに　酔うて私は～



先生は女の先生(40 才代)。声楽を修めた教え上手だが厳しい先生であった。月 1 回、全 7 回の講座(受講料 2500 円)。7 回目に、発表会をやること。3 回目の講義終了後に、各自、課題曲を提出するように言われた。これは大変なことになったと思った
迷いながらも、課題曲として、五木ひろしの「長良川艶歌」を提出した。

以後、毎夜 11 時頃から、30~40 分 YouTube の音楽に合わせて歌の練習をしてから休むことにした。やってみるとお腹の腹筋を使うし、全身で歌うので、運動にもなるのだろう。布団に入ると 10 分位で寝ついてしまう。その後熟睡。極めて健康的な夜が続く。

さて、発表会も近づくが、今さら逃げ出すことはできない。できることとしては、関内ホール近くのなじみのパブレストランに、週一で通い練習すること。午後 5 時の開店少し前に行き、客の来る前に練習をさせて頂くことだ。また、カウンターに座る常連（カラオケのベテランが多い）のお客たちとも、次第に顔見知りになり、時に、歌の手ほどきを受けるようになった。こちらが歌い終わると、拍手をもらうこともあり、それが何を意味するか知らないが、大変心強く思った。

そうして、発表会では名簿順に歌うということで、私は大トリを務めた。腹を決めマイクの前に立ったためか、ミスをすることもなく、無事、役割を務め発表会を終った。
最終講座終了後、地区センタースッタフの指導で、参加者有志により、カラオケグループを作り、地区センターを拠点にし、カラオケ活動を続けることになった。
「ボス会」（中屋敷地区センター、約 10 人） 約 10 名でスタートし、私も参加することにした。

この「ボス会」の活動を契機に、長年続いている大学の同期会による**「クラスカラオケ会」（新横浜駅前）5 人」**に加入し、こちらも月 1 回のペースで、カラオケルーム借り、好きかってを言いながら、楽しい歌会を行っている。

その他、時折、関内の**「パブレストラン」**にも顔を出し、**「米寿のカラオケ挑戦」**を念頭におき、ベテランの方達とも交流し、カラオケのブラシュアップを行っている。

大西代表幹事と熱唱
2024 年 3 月末

米寿のカラオケ：ガイドの会総会後二次会にて

以上

富山港における海王丸(１世)の思い出

望月　二朗

私は，平成 10(1998)年４月から４年間、富山県新湊市(現射水市)，海王丸(現伏木富山港・海王丸)財団に勤務した。業務担当常務として、業務課人事、総帆展帆時の解説、展帆日に行なう「海洋講座」の企画実施、外部との交渉を行なった。海王丸（1 世）が、平成２年４月、富山港で一般公開を開始してから８年、事業の拡充を図るため様々な工夫が試みられた時期でもあった。この間、**平成４年７月５日、海王丸パークが完成**した。在任中に経験した事柄について紹介したい。

総帆展帆を待つ海王丸

雪国富山の春は雪解けと共に急激に訪れる。立山連山の残雪を背景に人々の活動も活発ととなる。海王丸パークでは、前年 11 月アンベンディングを業者と乗組員、展帆ボランティアで行ない、約１ヶ月間、船内修理・整備作業を行う。12 月、一般公開を再開。３月、晴間を見てギヤー通し、セール・ベンディングを行なう。

登れ！展帆作業の始まり

３月、春分の日：祝意を表してミニ展帆(縦帆)を実施した。久し振りに白帆が輝く。

４月、キャラバン隊の派遣：長野県、愛知県等周辺の県・市に PR のため、船長、ミス海王丸、ミス新湊(当時)等一行６名が、年に数回出動した。近県への PR 活動は、富山県の交通事情が、愛知県から岐阜県経由、富山県砺波市に至る東海北陸道が開通し、関西方面からの観光客が北陸地方の観光地・温泉などを訪れ、五箇山の合掌集落の観光を行なって関西へ帰る(あるいは逆)ループ型の観光が可能になったことにより更に多くの観光客を招こうと盛んに行なわれた。実際、私の出身地信州安曇野の友人達が早朝に出発し、安房峠・トンネル、五箇山経由、氷見の民宿で宴会をし、帰路、海王丸パークに立ち寄る日帰り旅行を行なった。幹線道路開通以前はアルプス越えの日帰り旅行など不可能であった。

４月、新規展帆ボランティアの養成訓練(年数回)を開始する。続いて展帆ボランティアの再訓練を行ない作業手順の確認とチームワークの維持を図った。

展帆ボランティアの集い。年２回(4 月と 12 月)、高岡市と富山市、新湊市(当時)交互にボランティアと財団職員､県・市職員等との懇親会を行なった。富山では，通常の展帆後

の反省会、懇親会は実施しなかった。交通事情によると思われる。
鯉のぼり掲揚式：市内の幼稚園児を招いてパークのポールに鯉のぼりを掲揚した。
市消防主催の防災避難訓練；市内の小学校（4,5年生）の協力を得て、消火器取り扱い見学などを実施した。また、12月初旬にも、冬季避難訓練を行なった。

総帆展帆： 4月20日頃(休日)総帆展帆を開始した。以後、11月最初の連休まで年10回を予定した。4年間の在任中､天気に恵まれ39回実施できた。風向が良いと、立山を背景に開いた真っ白な総帆は見事であった。「海の貴婦人」「太平洋の白鳥」の威容を再現した。

平成13年6月3日は、海王丸の100回目の展帆であった。展帆作業に先立ち、ボランティア93名による祝賀の登檣礼を行なった。

総帆展帆時の解説は私の担当で、展帆(畳帆)作業の説明の間に、海王丸(日本丸)の歴史、乗船中の体験談も含めた帆船の航海、その他、財団の設立経緯、事業のPR､海洋教室などパークで行なう行事の概要などであった。

解帆作業中

7月「パーク誕生祭」7月5日;パーク完成を記念して，ミニ展帆を行なった。

「海の日」：フェスティバル。記念式典は、財団会長、県政策課長、海運支局長、保安部長等の列席を得て行なわれた。総帆展帆後、ボランティア表彰式、平成12年は50回表彰者11人で7、8年掛ったという。長い間の努力に感謝した。

8月1、2日「新湊祭り」：夏休みの最中で、昼間はミニコンサート、ジャズコンサート、ビーチバレー大会、トライアスロン・バイアスロン大会、海王丸クイズなど(年により)次々と行事が続き、最後に花火の打ち上げとなる。パーク周辺には灯りが少なく見栄えがした。平成12（2000）年には2000発、堪能した。富山県で二千年国体が開催された年であった。

「海洋講座」：総帆展帆日に、パーク交流センターの教室で実施。北陸地方の海洋事象、漁業・魚類、生物、行事など専門家の協力を仰いで､展帆ボランティアと一般見学者を対象に､約1時間余り講演していただき、後日冊子に印刷し、「海洋叢書」として講師や希望者に配賦した。富山特産の白エビ漁、ホタルイカの身投げ(漁)、ゲンゲ(深海魚)、魚津の海没林、蜃気楼、海洋深層水の利用などは初めて聞く話であり聴講者にも好評であった。

「海鮮祭り」：　10月20日過ぎに2日間、市漁協を中心に水産物、農産物の販売、フリーマーケット等多くの露天商などで賑わった。昔からの物々交換市場の延長で､パーク内は大賑わいであった。秋の最大の行事であった。漁協では、販売の他希望者には鯖や鯵の開き方の指導も行なった。主婦に人気があった。

「新海王丸の入港」：練習航海の途次、富山港に入港。ボランティアは実習生の案内で船内見学や「セールドリル」(総帆展帆)を見学し、統制の取れた作業に感心していた。

「海洋教室」：日帰りの「親子教室」、一泊の教室には、県・市内はじめ、長野県更埴市等からも毎年参加した。海洋教室ではウエーク・ボード（筏）乗りの体験をしたが、平成 13 年 8 月から、日本財団の補助事業で購入した海洋少年団型カッターを使用し、撓走訓練に加え帆走訓練を行った。初めての帆走で小学生は驚くやら喜ぶやら帆走艤装は成功だった。２年間で合計 6 隻のカッターを導入した。後に一般のカッター訓練にも使用した。

新海王丸入港：同時展帆実施

「写真展、絵画展」：パークのパーゴラ(建物)では、一般を対象にパーク写真展、児童の絵画展を行ない、表彰式を行なった。私も、絵画選者の一人であったが、専門の先生は上手な作品が入選とはせず特徴の有る昨品を評価したいと言われた。

写真展入選作品：海王丸ハガキ

「移動海洋教室」：平成 12 年、新規事業として市の教育委員会の賛同を得て、我々が小学校に出向いて PR 活動を行なう移動海洋教室を開始した。海王丸パークから遠距離にある小学校や要望がある小学校に、船長と私、総務課長と業務課(航海士)など 3，4 人が一組で出向いて説明を行なった。私は、利賀村小学校や放生津小学校を訪れ、船員になった動機、海王丸の航海、パークの行事などを説明した。船長の話も面白く、結構反響は良かった。その後、放生津小学校は、9 月の海洋教室(小 4 年)に参加、12 月の避難訓練にも協力して参加してくれた。

財団の統合、海王丸の富山係留：富山在任中の経験を中心に記してきたが、退職の前年から、**海王丸財団と伏木富山港振興財団との統合案**が中部運輸局等で検討された。私の退職後**平成 14 年 7 月、統合された。**

また、**海王丸の富山恒久係留は、平成 6 年 3 月に決定した。**富山県関連施設の集客数の首位を維持(年間 100 万人・県の人口に匹敵)し、共同出捐の大阪市に交渉してきた、待望の決定であった。

帆船日本丸は、横浜にあって１００年の航海に向けて頑張っている。海運界の金さん銀さんとも言うべき、初代日本丸と海王丸の姉妹が揃って百寿を迎える日も近い。我々も、その日を共に祝うべく、元気に過ごしたいものである。　　以上